

アユの天然魚と放流魚における漁期中の割合変化

福島県内水面水産試験場 調査部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－アユ

2 担当者名

猪俣 絢女

3 要旨

アユは内水面において重要魚種であり、漁協におけるアユ増殖事業を推進するため、天然資源を活用した増殖手法の確立が必要である。鮫川水系四時川のアユについて、計数形質により汲み上げ放流（以下、天然）と人工種苗（以下、人工）を区分し、日別地点別にその割合を算出した結果、漁期が進むにつれて人工の割合が減少することが考えられた。

(1) 鮫川水系四時川において 2024 年は、天然約 250 万尾、人工約 200 万尾が放流された。同年 5 月 30 日に沼部取水場堰下で採捕した天然（105 尾）と同年 6 月 7 日に入遠野地区で採捕した人工（15 尾）の背鰭第 5 条側線上横列鱗数（以下、鱗数）と下顎側線孔数（以下、孔数）を計数し、天然と人工の区分基準を検討した。

表 1 計数形質の頻度分布

	N=105 天然						N=15 人工						
	下顎側線孔数 (個)						下顎側線孔数 (個)						
	4	5	6	7	8	9	4	5	6	7	8	9	10
天然	13				1		13				1		
	14						14				1	1	
	15				3		15			3	8	1	
側線上方 横列鱗数 (個)	16		2	21			16						
	17		1	25			17						
	18		1	24			18						
	19		1	12			19						
	20		1	12			20						
	21			1			21						
	22						22						

(2) 鱗数については、16 枚以上を天然、15 枚以下を人工に区分した。孔数は、鱗数で明確に区分できたため、区分基準として使用しなかった（表 1）。

(3) 同年 7～9 月に 3 地点で電気ショッカーによりアユを採捕し、区分基準から天然と人工に分け、日別地点別の平均全長及び割合を比較

した。平均全長は有意差が認められず（t 検定、 $p>0.05$ ）、割合は各地点で人工の割合が経日的に小さくなる傾向がみられた（図 1）。今後は釣獲したアユについても分析する必要がある。

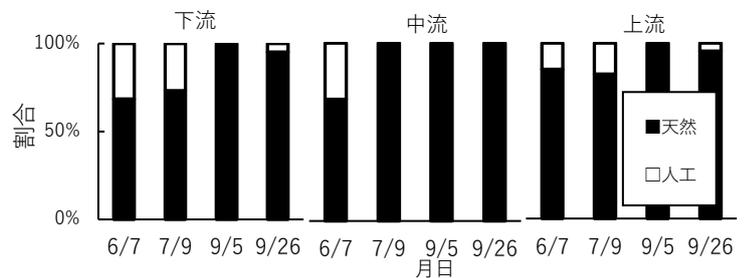


図 1 日別地点別の天然と人工の割合

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 内水面重要水産資源の増養殖手法の開発

5 主な参考文献・資料

- (1) 岐阜県水産研究所, アユの側線上方横列鱗数の計数マニュアル 2.0, 2022.